地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2018
8月
No.51

兵庫県立尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center (AGMC)

[院内専門センターのご案内]

救命救急センター「生命の危機に瀕した救急患者さんの命を救うこと、それが救命救急センターの使命です」

[医療チームのご紹介]

認知症せん妄サポートチームのご紹介「D:どこでも D:出向く S:サポート T:チーム(^^)」を目指します

● [AGMCニュース] ～患者さんの目線に立った接遇を目指して～

●セミナーのご案内　●スタッフのつぶやき　●ぶらり～っと病院探訪

救命救急センター

院内専門センターのご案内

複数の診療科・部門を一つにまとめ、診療機能を統合させた当院の《センター》をご紹介します。

生命の危機に瀕した救急患者さんの命を救うこと、それが救命救急センターの使命です

救命救急センターの特徴

救命救急センターは重症あるいは複数の診療科にまたがる重篤な救急患者さんを診療するための部門です。当院の救命救急センターでは迅速かつ効率的に救急医療を提供できるよう、トリアージ（緊急度の判定）・初期診療・集中治療を病院1階にある救急外来・EICU（救急集中治療室）・救急病棟で完結できる体制を整えています。

ER総合診療科科長
救急救命センター長
吉永 孝之

- 日本救急医学会 専門医
- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本消化器病学会 専門医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医
- 日本肝臓学会 専門医
- ICD制度協議会認定 Infection Control Doctor
- 京都大学 初期臨床・救急医学分野 臨床教授

救急集中治療科長
救命救急センター次長
鈴木 崇生

- 日本救急医学会 専門医・指導医
- 日本外科学会外科専門医
- 日本集中治療医学会 集中治療専門医
- 日本DMAT隊員

ER総合診療科部長
西内 辰也

- 日本救急医学会救急科専門医・指導医
- 麻酔科標榜医
- 日本DMAT隊員

後列左から：堀谷、山内、井場、生方、吉永、西内、宮﨑、川本、松尾、矢野
前列左から：中屋、田中、牛塲、稲垣、一ノ瀬、中村、米倉、伊藤

組織構成

ER総合診療科、救急集中治療科

診療体制と診療内容

救命救急センターを受診される患者さんのうち、緊急性が高いと判断して救急隊が搬送した患者さんはただちに救急外来で診療を開始します。その他の患者さんに対しては看護師がトリアージを行います。トリアージで緊急度が高いと判断された患者さんから順に医師が診察し、必要に応じて各診療科の医師に診療を引き継ぎます。診察の結果、入院が必要かつ重症の場合には救急外来に隣接するEICUで救急集中治療科が診療を担当します。
当院の救命救急センターには年間1万件を超える救急搬送があり、救急車以外の手段で来院される患者さんも1万人以上おられ、患者数では県下で一二を争う救命救急センターです。

左から：松本、高田、高見、甲田、橋本、恒光、多田、高田、鈴木

左から：清水5F救急病棟師長、岡1F救急病棟師長、吉田救急初療師長、塩飽EICU師長

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

曜日・時間帯によっては診察までの待ち時間が数時間におよぶことがあります。訓練を受けた看護師によるトリアージにもとづき命にかかわる重症患者さんから優先的に診療していますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

医療チームのご紹介

ーみんなで支えるチーム医療ー

安心・安全な医療の提供を目指し、院内で多職種協働にて活動する医療チームをご案内します。

認知症せん妄サポートチームのご紹介

チーム責任者
影山 恭史（神経内科長）

見野 耕一
（副院長（精神医療担当）、精神科長）

「D：どこでも D：出向く S：サポート T：チーム（^^）」を目指します

入院直後より、身体疾患の治療やケアが安全に、安心して、そして“その人らしく”受けられる環境づくりを行います。

▶認知症せん妄サポートチームとは

入院という慣れない環境や治療は、とても大きなストレスとなり、混乱が生じることが少なくありません。そうした中で、認知症の周辺症状や、意識の曇りと言われる“せん妄”が出現し、治療やケアに支障を来すことがあります。

認知症を抱えた患者さんが入院しても、その人らしく治療やケアがスムーズに受けられるような環境調整を病棟スタッフとともに行っています。また、認知症がなくても、せん妄リスクの高い患者さんには、入院時よりせん妄予防に努め、せん妄が生じた際は、病棟スタッフと連携し、せん妄の治療やケアに積極的に参加しています。

●チームメンバー

●チームカンファレンス

●チームラウンド

1 構成メンバー

診療部（神経内科医２名、精神科医３名、ER総合診療科医１名）、精神看護専門看護師１名、認知症看護認定看護師２名、医療安全対策室看護師２名、薬剤師７名、作業療法士１名、精神保健福祉士１名、社会福祉士１名、心理士２名

2 活動内容

1）院内チームラウンド

各病棟の認知症、せん妄患者さんの情報をチームメンバーで共有し、毎週火曜日にカンファレンスとラウンドを行い、せん妄や行動・心理症状の治療、ケアへの提案を行っています。また、適宜、ラウンドを行い、その後のフォローアップも行っています。

2）認知症・せん妄ケアに対する教育支援や研究活動、地域連携

院内に向けたDDST通信の発行、認知症やせん妄の勉強会や研修会の企画と実施、活動実績に基づいた研究活動を行っています。特に、認知症ケアにおいては、地域との連携を強化・推進し、地域医療にも寄与しています。神経内科一般外来ではもの忘れの患者さんを診察しますが、それと別にかかりつけ医からの紹介患者さんに対し、認知症看護認定看護師とともに「もの忘れ外来」を毎週木曜日に行っています。また、同看護師による「もの忘れ看護相談」を毎週火・木曜日の午前中に開いています（要予約）。

3 メッセージ

入院後の環境の変化で不都合なことが多いと思いますが、少しでもお役に立てるようチーム一同で取り組んで参ります。その際にはお気軽にご相談いただければと思います。

AGMC ニュース

～患者さんの目線に立った接遇を目指して～

患者サービス委員長　箕浦 洋子

患者サービス委員会では、患者サービスの向上を目指して毎年接遇研修会を行っています。

7月11日、(株)エムリンクス宮本美智子先生を講師にお迎えして、第1回目の接遇研修を開催いたしました。医師、看護師、薬剤師、理学療法士、放射線技師、事務職員等、141名が参加いたしました。「コンプレインをコンプライしてコンプライアンスのエキスパートに！」と少々難しいテーマでしたが、これは、「配慮ある言動を標準とし、患者さんからの声に真摯に対応し、信用信頼される組織になる」ことで、医療サービスのプロフェッショナルとしての接遇を行うということを意味しています。

お辞儀の練習、ケアの言葉や行動の振り返り、聞く姿勢と話しやすい雰囲気づくりなど、演習とグループワークを取り入れ、一体となって演習を行いました。多職種が話し合うことで、それぞれの立場を理解し、多様な価値観に触れながら、良い雰囲気で研修を終えました。

▲研修風景

アンケート結果から、約98％の職員が研修で学びがあったと答えており、「窓口対応に取り入れたい」「相手の立場に立って考える姿勢を大切にしたい」「言葉遣いに気をつけたい」「患者さんの気持ちに寄り添った対応をしたい」などの沢山の意見がありました。研修で学んだ傾聴や共感の姿勢の大切さを胸に、更なる患者サービスの向上を目指して行きたいと思います。

セミナーのご案内

第18回 生活習慣病セミナー

多くの方のご参加を！

テーマ 『狭心症・心筋梗塞』

～心臓の病気に対してあなたはどのように対応していますか？～

【講　師】県立尼崎総合医療センター
●循環器内科医　谷口 良司　●看護師　宮地 さやか
●理 学 療 法 士　上田 大輔　●栄養士　佐々木 洋太

【日　時】平成30年9月19日(水曜日)　午後2時～4時

【場　所】県立尼崎総合医療センター 講堂(1階)　参加費:無料(予約不要)

★お問い合わせ：外来Bブロック(糖尿病・内分泌内科) 看護師　☎ 06-6480-7000(代表)

スタッフのつぶやき

院内で必要な物品、私たちにお任せください！

物品管理室（エム・シー・ヘルスケア会社）

物品管理室では、院内で使用される医療材料や事務用品、印刷物、薬品、滅菌物の供給を行っています。取り扱う医療材料（主に単回使用品）は約7000品目あり、1本1円もしない針から数十万するカテーテルなど多岐に亘る物品を、全て統一コードで管理しています。これらを適正な価格で購入し、安全・安心・清潔に、使用者（医師・看護師）の元へお届けすることが私たちの使命です。

その他、患者様へ投与される日々のお薬や滅菌された器材、事務用品の配送に至るまで、総勢30名弱のスタッフで、院内の物流を支えながら、少しでも支出を抑えるべく尽力しております。

「物流」のイメージって、作業服を着たゴツイ男性ばかり？そんなことはありません。女性も多数活躍していますよ。

ぶらり～っと病院探訪

患者さんの癒やしの場　ときの間

入院中での症状増悪を予防し、円滑な退院を促進

本日は、7階東の病棟の奥にある「ときの間」にやってきました。「ときの間」とは、患者さんが入院目的を果たしながら、安全・安楽に安心して、その人らしい過ごし方が出来る癒やしの時間を提供することを目的に作られた場所です。

「ときの間」では、医師1人、看護師1人、介護福祉士3人、臨床心理士1人、作業療法士1人計7人で活動されており、約10～15人の患者さんが集まって、音楽療法士さんとともに歌を歌ったり、体操をしたり、簡単なゲームを行い楽しく時間を過ごしておられます。日中に、楽しく過ごすことで生活リズムがうまれ、夜中にぐっすり眠れるようにされていると伺いました。

また、「ときの間」を訪れることが難しい患者さんには、スタッフが病室を訪ねお話ししていると聞いて驚きました。「ときの間」では、患者さんだけでなく、職員も笑顔で過ごされていることがとても印象的でした。

編集後記

ありきたりですが、昨年10月よりヨガを始めました。肩こり改善のため、運動をと思ったのがきっかけだったのですが、すっかりはまってしまいました！汗をかく、筋肉痛になるというのがこんなに気持ちよいとは…！(^^)今は暑い夏ですが、もうすぐ運動に適した季節がきます。皆様も新しく運動を始めるのはいかがですか…？そういえば、センターの産婦人科ではマタニティヨガが開催されているそうです。気持ち良さそうだなあ…。　（K.K.）

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000（病院代表）　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社